

滄浪閣 変遷		前身建物	T15.7月 第Ⅰ期 《創建時》	S20.8月 第Ⅱ期 《ベランダ改造時》	S26.5月 第Ⅲ期 《西武改造時①》	S30 第Ⅳ期 《西武改造時②》	H4 第Ⅴ期 《コクド改造時》	R2 第Ⅵ期 《現在》	
年代		明治期	大正期			昭和期		平成期	令和期
所有者		伊藤博文：～M42 伊東博邦：M42～	李戴克	GHQ 時期 不明 檜橋渡	西武鉄道		(株)コクド：H4～18 (株)リンスホテル：H18～19 川邊靖男：H19～25 (株)漢泉：H25～30	国所有	
古図面・古写真		家屋図 (作図：M29～30) 	図1 [別紙①-A] (作図年：不明) 	図2 [別紙②-D] (作図年：S26～30) 	図3 [別紙②-E] (作図年：S26～30) 	図4 [別紙③-J] (作図年：S59年) 	図5 [別紙④-N] (作図年：H4.6月) 	現状図 [別紙④-P] (現在) 	
改造等 内容		古写真 滄浪閣和館 (明治後期) 	古写真 [別紙①-B] (T15～20※推定) 	古写真 (S26) S26.06月01日の 玄関外観写真あり (創建時のままの 玄関が写る) 	航空写真 [別紙②-F] (S27.11月) 	航空写真 [別紙②-I] (S30.1月) 	航空写真 [別紙③-L] (S47.5月) 	航空写真 [別紙④-O] (作図年：不明) 	
規模		古写真 滄浪閣洋館 (年代不明) 	古写真 (T15) T15.08月の 玄関外観写真あり 	航空写真 [別紙①-C] (S21.8月) 	古写真 [別紙②-G] (S27以降) 	古写真 [別紙②-H] (S26以降) 	航空写真 [別紙③-K] (S39.7月) 	航空写真 [別紙③-M] (S52.10月) 	
間取等									
その他		・関東大震災で倒壊した可能性あり。	・T15.7月竣工 設計：中村與資平(可能性) 施工：多田工務店	・改修(1)：洋室棟南ベランダ	・改修(2)：増築棟A接続部 ・改修(3)：玄関玄関・事務棟 間仕切等 ・改修(4)：ホール棟接続部(玄関・事務棟) ・改修(5)：調理・配膳棟 間仕切等 ・改修(6)：侍女棟 間仕切等 ・侍女棟・事務棟の床レベルを上げているが、改造時期は不明	・改修(7)：洋室棟 廊下建具 ・改修(8)：和室棟 間仕切 ・改修(9)：侍女棟間仕切等 ・改修(10)：浴室・化粧室棟 間仕切等 ・改修(12)：調理・配膳棟間仕切等	・改修(11)：玄関・事務棟 間仕切等	※改修詳細不明	
資料分析		・茅葺の和館を中心に数棟の建物が確認できる。洋館は、その後増築したとされる。	・前身建物と形状の類似は無い。	・Ⅱ期の古図面は存在しない。航空写真では、規模は変更されていないと推定される。GHQが改修した根拠は不明。	・旅館へ大きく改造される。西武鉄道所有開始時期、航空写真の状況より、図2が実際の設計図、図3が計画図の可能性が考えられるが、詳細は不明。	・玄関フロントの位置や、内部の改造により、北側の侍女棟、玄関・事務棟、調理・配膳棟の間仕切り壁が大きく改造される。			
現存建物との照合			・現地に残る痕跡は、木子文庫図とほぼ合致する。当初材と判断される部材の一部に転用材あり。	・Ⅱ期の改造と推定される浴室が現在も残る。	・客室へ設置した浴室の一部は、現状の床下にその基礎遺構が残る古図面と合致する。その他の間仕切り等の痕跡はほぼ残っていない為、照合できない。火災の痕跡が小屋裏に残る。	・Ⅳ期の間仕切り壁改造は、基礎、床組、小屋組を残しながら、柱のみを撤去する改造であることが、現地の痕跡より判る。増築棟取り付け部以外は、ほぼ現在の姿に近くなる。	・本事業前の規模・間取	・現在の規模・間取	
復原考察			・大きく改造されている調理・配膳棟、撤去された浴室・化粧室棟は、不明点が多い。その他改造範囲は、床下、小屋裏に当初材が残る為、規模、間取は判る。内外装仕上は、部分的に当初材が残る。	・ベランダ改修以外は創建時のままと推定。	・改造が多く、痕跡が残っていないため、Ⅲ期の状況詳細は不明。	・現存しない増築棟取り付け部は不明点が多い。			

変遷表について
 ・建物の姿、形に関する情報のみ抽出して整理
 ・変遷期の区分は、時期詳細が不明のものが多いため、大きなまとまりで設定している。
 ・改造はしているが改造時期が確定できていない内容はグレー